



2014 Autumn vol.27

SEASON



ISSN 1349-3760

 創大祭読書展 & 読書週間

 語学習得の第一歩は図書館から！

 Special Column

 図書館書簡

読書推進運動協議会が主催する「読書週間」が10月27日から11月9日まで開催されました。読書週間は、終戦間もない1947年、まだ戦火の傷痕が残っているなかで「読書の力によって、平和な文化国家を作ろう」という決意のもとに始まりました。

本学でも創大祭で読書展を企画したSRPが、創立者が提唱される活字文化復興を目指す読書運動としてSBW (Soka Book Wave) を運営しています。

SBWでは読書した本の感想文などを提出し、その感想文を大学院生がチェックします。承認が得られるとポイントが付与され、獲得したポイント数に応じて読書カードが贈呈されます。

SRPの総括をしている経済学部3年の石原勝利さんは「SBWにはすでに



に参加されたでしょうか。参加者からは、「なかなか感想文が承認されない。」「評価のコメントが厳しい。」といった声もうかがえましたが、「感想文を書くことで、自分の考えを見つめまとめるよい訓練になった」という声もありました。評価はAからEまであり、C以上の評価でポイントが付与されます。

感想文は200字以上、600字未満で提出します。書く量は少ないですが、少ない文章で感想を述べないといけないため、それだけ本の内容をよく理解し、何を書くか熟慮することが要求されるので、いい文章トレーニングになります。」と、SBW参加のポイントを話してくれました。



SRP (Soka Reading Project) 主催 創大祭 読書展

今年の読書展のテーマは「個性・力ラーニング」。

パネル展示では、大衆文化部門による「文庫本の歴史」を、親子向け部門では「子供たちに人気な個性的な妖怪たち」を、そして文豪研究ではヴィクトル・ユーゴー、魯迅、太宰治、ミヒヤエル・エンデの4人の文豪を紹介しました。

今年度の読書展も、来館者からの好評を受けてその開催を無事に終わりました。

パネル展示では、大衆文化部門による「文庫本の歴史」を、親子向け部門では「子供たちに人気な個性的な妖怪たち」を、そして文豪研究ではヴィクトル・ユーゴー、魯迅、太宰治、ミヒヤエル・エンデの4人の文豪を紹介しました。

私は2007年9月から2012年7月まで中国・北京にある中国国民大学に留学した。実のところ、この間、読書らしい読書をしたという記憶はないのだが、本に関する留学中の私の思い出を少々書かせていただこうと思う。

まず、本といつて思い出すのは、毎週末に大学構内的一角で開かれる青空古本?市場である。この市場は土曜日の早朝から複数の業者が車いいっぱいに本を詰めこんできて学生に格安で本を販売するというものである。扱われる本の種類は、TOEFLなどの英語試験の教材、大学で用いるようなテキストや辞典から、最新の文芸書、難解な学術書まで多岐に及んでいる。購入する際には店主に値段を聞いて、値段交渉をする。私にとつて、この古本?市場は密かな楽しみで、中国語の練習も兼ねてよく通った。ここで購入した本で、現在でも研究の際にお世話になっている辞典などもある。

さて、先にこの市場のことを「古本?」という表記にしたのは訳がある。前述のとおり、「この本は一般的な定価よりもかなり安い。物によつては一、三割の価格で購入できるものもある。その理由は、これらの本の半が古本であるからであるが、なかには発売したばかり

Special Column ～読書週間によせて～

「中国での生活と 本についての思い出」

文学部 人間学科 助教 松森秀幸



り新刊本も割引価格で売っていること
もある。たとえば、私の留学期間中に
アメリカ大統領に就任したオバマ大統
領の就任演説の中国語訳なども、発売
当初から大量に売られていた。これら
格安の新刊本は、中国語で「盗版」と
いわれる、いわゆる「セモノ」である。
しかし、二セモノといつても本の内容
は、本物とまったく変わらない。ただし、
単に印刷と紙の質が悪いだけなのであ
る。このことを知った時は、さすが中国、
なんでもありだなあと思った。ただし、
最近は中国でも著作権意識が高まっ
てきて、政府が強く規制を始めたため、
こうした「盗版」はかなり減ってきて
いるらしい。

中国でもネット通販が発展し、多くの人は必要な本をネットで購入するようになっていた。北京などの大都市であれば注文して翌日には自宅に本が届く。私が大学院を卒業するころには、私の同級生のほとんどは、必要な本をネットで購入していた。中国では、「このようないいネット型の書店の台頭によって、数年前から、巨大なビルの4フロアを占有していた大型書店や、北京中に展開していた大型チェーンの書店、老舗の専門書店などの店舗型の書店の閉店

が相次いでいる。こうした状況は、日本でもだいたい同じであろうが、私の印象では、中国の方が店舗型書店へのダメージが大きいように感じる。しかし、こうした状況にかわらず、大学の早朝古本？市場は、いまだ変わらぬ賑わいを見せている。もしかすると、こうした姿もそのうち時代の流れのなかに消えさってしまうのかもしれないが、読者の皆さんには一度はぜひこの中国的な青空市場を経験してほしいものである。

さて、この書が古本？市場で出会った本の中に印象深い一冊がある。それは季羨林先生に題する本である。季羨林先生

先生の半生は大きく取り上げられていい。私はつい談集が出版された当時、創価大学の大学院修士課程に進学したばかりであった。このつい談集は内容が私の専門に近い分野であるため、私にとつて大変深い印象があるつい談集である。そのため、古本？市場で季先生についての本を見かけたとき、すぐにそれに飛びついたことを覚えている。季先生は、インドの古代言語研究をはじめ、仏教学、インド学など幅広い分野でご活躍されたが、残念ながら私は生前に先生にお会いする機会には恵まれなかつた。

ただいた。楊先生は二週間に一度、北京の若手僧侶を対象に自宅で勉強会を開かれており、この勉強会に特別に私も参加させてもらつた。この勉強会は、5名から8名の少人数で行われ、楊先生の『唐五代禪宗史』を基本テキストに、代表的な禪宗文献を講読するというものであつた。『唐五代禪宗史』という表題から、この本は唐代以降の禪宗の歴史を講じたもののようにみえるが、実際には初期中国仏教の禪定から中国禪宗史全般を扱う内容である。山東つまりの熱のこもつた語り口の楊先生の講義は、学術的に大変厳格なものであつたが、寺所見せる先生の微笑みからは

林先生は、北京大学の副学長も務めた大変著名な学者で、中国を代表する学者に送られる国学大師の一人であった。本学創立者ともてい談集『東洋の智慧を語る』（東洋哲学研究所、2002）を出版されている。季先生は2009年7月に惜しくも逝去なされたが、先生が亡くなられると、相次いで先生の語録や伝記いった季羨林先生に関連する書籍が出版された。当時、中国における季先生の存在の大きさを改めて実感したものである。私が購入した本もそうした先生の伝記に関する本であつた。創立者との語らいのなかでも、季

うことでいえば、『唐五代禪宗史』（中国社会科学出版社、1995）の著者である楊曾文先生との出会いは忘れられない。思えば、留学中に最もよく読んだ本は、この『唐五代禪宗史』であつたかもしない。私の専門である中国仏教の研究分野では、三人の学界を代表する研究者がいる。北京大学の楼宇烈先生、中国人民政府の方立天先生、中国社会科学院の楊曾文先生である。残念なことに方先生は本年7月に逝去なされたが、私は留学中にこの三人の先生方に直接お会いする機会を得、なかも楊曾文先生には特に目をかけてい

かが時折見せる先生の微笑から、後輩を育成しようという先生のやさしさがにじみ出していた。また、講義において楊先生は、しばしば日本人の学者との交流の思い出を語っていた。楊先生がただの留学生にすぎない私を講義に招いてくださったのは、今後の日本中の間に学術交流に貢献するよう努力しろとの激励であつたようだ。こうして楊先生の講義を思い起こしてみて、改めて日本中の間の学術交流に尽力していくことの思いを強くした。

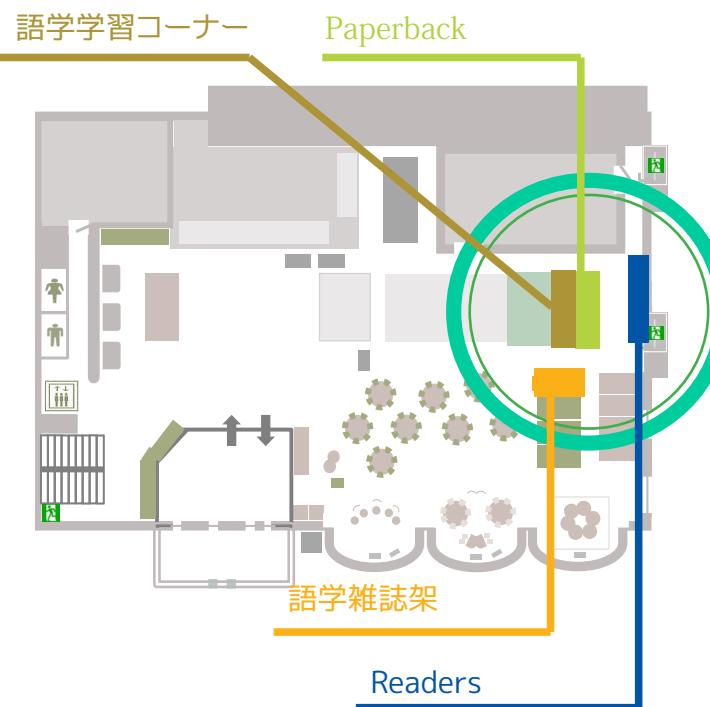
語学を勉強したいな～と思ったら 中央図書館にいってみよう！

1階の奥には、語学学習に便利な語学学習のエリアがあります。語学学習コーナーには TOIEC や TOEFL をはじめ、英検、ドイツ語やフランス語などの各国語の参考書や問題集が取り揃えています。

Readers コーナーには、多読での英語習得に適した Graded Readers(英語学習者用段階別読み物) があります。英語初級者や英語が苦手な方でも、自身の英語力に合わせたレベルの本を選んで読み進めていくことができます。

Paperback コーナーには、洋書のペーパーバックがあります。英語が堪能な方。英語力に自身のある方は挑戦してみては如何でしょうか。英語が母国語の方にも楽しんでいただけると思います。

1階語学学習エリア



SPACEと中央図書館を、上手に活用しよう！

中央教育等 2階の SPACE でも語学関連の教材を読むことはできますが、貸出はできません。SPACEで気に入った本があったら、中央図書館で探してみてください。

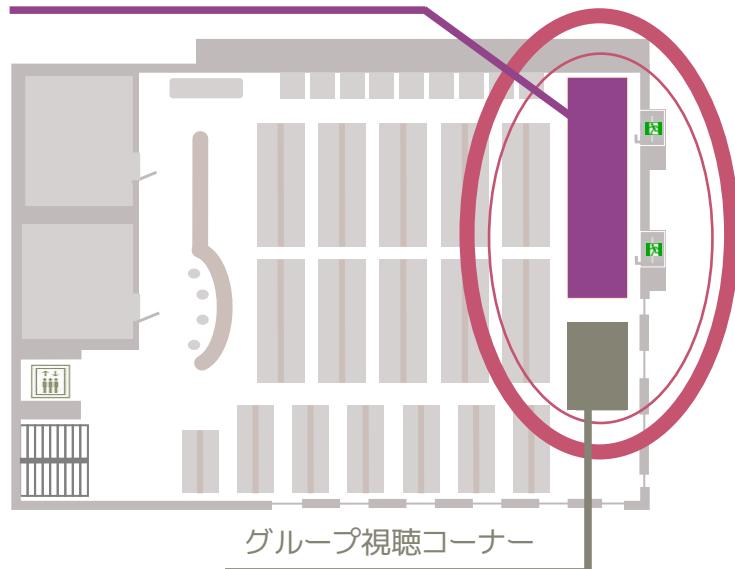


1階語学学習エリアの雑誌架のコーナーには、語学学習用の雑誌が並んでいます。英語だけではなく、ドイツ語やフランス語の語学雑誌も取り揃えてあり、貸出もできます。

4階には DVD 視聴コーナーがあります。ここで1階カウンター前にあるDVDをご覧いただけます。人気の海外ドラマや洋画が数多くあるので楽しみながらリスニングの練習ができます。また2～5人で一緒にご覧になりたい方のためのグループ視聴コーナーもあります。どちらも席に限りがありますが、満席の場合にはポータブルDVDプレーヤー(1～2人用)の貸し出しをしています。DVDの視聴をされたい方は1階の書庫利用カウンターにて視聴の手続きを行なってください。ヘッドホンのみの貸出もしています。

4階 DVD 視聴コーナー

DVD 視聴コーナー（個人用）



SPACEのWLC Self-Access Centerでは Chit Chat Club や Global Village、English Forum で留学生たちと交流して実践的な語学の訓練ができます。しかし、「いきなり Chit Chat Club などに行くのは自信がない…。」という方は、中央図書館で DVD を英語で見たり、英会話の教材を利用してみては如何でしょう？中央図書館で勉強して語学に自信を付けて、SPACEにデビューしてみましょう！

中学生職場体験

中央図書館に、中学生の生徒さんが職場体験に来られました。甲ノ原中学校より三名の生徒さんが9月9日（火）から11日（木）まで、石川中学校より六名の生徒さんが9月17日（水）から19日（金）まで、図書館業務の職場体験をしました。

カウンターで行う図書の貸出返却でなく、返却された図書をきちんと書棚に戻す「配架」業務や、図書館に来た図書に透明なカバーをかける「整理」業務を実際に体験していただきました。

慣れない手つきでも、一生懸命カウンター業務を手伝ってくれる姿に、創価大学の学生の皆さんのが暖かく接して下さりました。後日、職場体験をされた中学生の生徒さんから図書館に丁寧なお礼状が届き、「実際に働いてみると業務の多さにびっくりしました」「本に興味を持った、色々な人が書いた本を読みたくなった」などの感想を頂きました。職場体験を通して有意義な時間を過ごして頂けたようです。皆さんのご理解とご協力、誠にありがとうございました。

中央図書館1階閲覧室で、月曜・水曜・金曜の16:30から18:30までSPACE所属の大学院生のTAが、学習相談とレファレンスを行っています。

「どんな科目を履修すればいいか?」「課題で出される論文の資料はどうやって集めたらよいか?」などなど、悩んでいる方の強い味方となります。

学習相談窓口で手厚いサポートを受けて、大学生活をより実りの多いものにしていきましょう。



長期貸出期間

冬季の長期休業による長期貸出期間が始まります。

長期貸出開始日：12月8日（月）
一斉返却日：1月14日（水）

※2週間貸出者、4週間貸出者同時に開始

この機会に気になっていた本や専攻分野の図書を借りて、年末年始は読書や学習にいそしんでみてはいかがでしょうか。

学習相談窓口

図書館
簡便